

表12 質問4-18 口の渇きと現在歯数・FTU

		度数	平均値	標準偏差	平均値の 95% 信頼区間	
現在歯数	はい	122	24.59	5.185	23.66	25.52
	いいえ	536	25.95	3.914	25.62	26.28
	合計	658	25.70	4.208	25.38	26.02
FTU(現在歯)	はい	122	5.50	2.340	5.08	5.92
	いいえ	536	5.96	2.103	5.78	6.14
	合計	658	5.88	2.155	5.71	6.04
FTU(現在歯+ポンティック +インプラント)	はい	122	6.02	2.274	5.61	6.42
	いいえ	536	6.51	1.998	6.34	6.68
	合計	658	6.42	2.059	6.26	6.58
FTU(現在歯+ポンティック +インプラント+義歯)	はい	122	6.50	1.855	6.17	6.83
	いいえ	536	6.92	1.517	6.79	7.05
	合計	658	6.84	1.592	6.72	6.96

「いいえ」と答えた者の方が有意に現在歯数・FTUとも多い。

現在歯数 (p=0.001)、FTU(現在歯) (p=0.033)、FTU(現在歯+ポンティック+インプラント) (p=0.016)

FTU(現在歯+ポンティック+インプラント+義歯) (p=0.008)

表13 質問4-16から質問4-18までの項目（口腔機能低下の自覚症状）の「はい」の数と現在歯数・FTU

	はい の数	度数	平均値	標準偏差	平均値の95%信頼区間	
現在歯数	0	392	26.65	3.208	26.33	26.97
	1	189	24.55	4.673	23.88	25.22
	2	64	23.64	6.278	22.07	25.21
	3	14	23.36	3.153	21.54	25.18
	合計	659	25.69	4.216	25.36	26.01
FTU(現在歯)	0	392	6.35	1.800	6.17	6.53
	1	189	5.20	2.374	4.86	5.54
	2	64	5.19	2.696	4.51	5.86
	3	14	4.64	2.023	3.47	5.81
	合計	659	5.87	2.158	5.70	6.03
FTU(現在歯+ポンティック +インプラント)	0	392	6.91	1.602	6.75	7.06
	1	189	5.75	2.369	5.41	6.09
	2	64	5.61	2.682	4.94	6.28
	3	14	5.29	2.091	4.08	6.49
	合計	659	6.41	2.065	6.26	6.57
FTU(現在歯+ポンティック +インプラント+義歯)	0	392	7.14	1.210	7.02	7.26
	1	189	6.46	1.895	6.19	6.73
	2	64	6.34	2.132	5.81	6.88
	3	14	5.64	2.098	4.43	6.85
	合計	659	6.83	1.602	6.71	6.96

有意な差が見られたのは

現在歯数： 0>1(p<0.001)、 0>2(p<0.001)、 0>3(p=0.017)

FTU(現在歯)： 0>1(p<0.001)、 0>2(p<0.001)、 0>3(p=0.016)

FTU(現在歯+ポンティック+インプラント)： 0>1(p<0.001)、 0>2(p<0.001)、
0>3(p=0.016)

FTU(現在歯+ポンティック+インプラント+義歯)： 0>1(p<0.001)、 0>2(p=0.001)、
0>3(p=0.003)

表14 口腔機能の低下の自覚症状の年齢階級別該当率

	40～44 歳	45～49 歳	50～55 歳	計
該当なし	110 76.92%	99 62.26%	177 51.01%	386 59.48%
1つのみ該当	26 18.18%	47 29.56%	113 32.56%	186 28.66%
2つのみ該当	6 4.20%	10 6.29%	47 13.54%	63 9.71%
3つすべて該当	1 0.70%	3 1.89%	10 2.88%	14 2.16%
計	143	159	347	649

* χ^2 二乗: $p < 0.01$

表15 口腔機能の低下の自覚症状の男女別該当率

	男性	女性	計
該当なし	120 55.81%	271 61.31%	391 59.51%
1つ該当	61 28.37%	127 28.73%	188 28.61%
2つ該当	30 13.95%	34 7.69%	64 9.74%
3つ該当	4 1.86%	10 2.26%	14 2.13%
計	215	442	657

有意差無し

D. 考察

咀嚼機能の低下が生じ易いとされる 20 歯未満を歯の数の質問によりスクリーニング可能か検討した。鏡を使用しないで歯の数を選ばせる質問より、手鏡を使用した質問の健診結果との一致率は高く 90%を超えていた。感度と特異度も高く 0.9 を超えていた。手鏡の使用による歯の数のスクリーニング法の有効性が示唆された。しかし、冠等により補綴されている歯を自分の歯として数えなかった者もみられたので、注意書き等により誤りを少なくする必要があると考えられた。

質問により咀嚼機能に大きな影響を与える歯の数や臼歯部の咬合状況をスクリーニングできるかの検討を行った。臼歯部の咬合状況に関する質問（自分の歯または入れ歯で左右の奥歯をしっかりと噛みしめることができますか）と現在歯数・Functional Tooth Unit

(FTU) では、両方できると答えた者の現在歯数・FTU 平均値がいずれも最も多く、片方できると答えた者の平均値が次に多く、どちらもできないと答えた者の平均値が最も少なくその差は有意であった ($p < 0.001$)。よって、この簡易な質問により、咀嚼機能に大きな影響を与える歯の数や臼歯部の咬合状況をスクリーニングできる可能性が示唆された。

口腔機能の低下に関する質問と現在歯数・FTUの関連について検討を行った。咀嚼機能低下、口腔乾燥に「いいえ」と答えた者の方が現在歯数・FTUとも有意に多かった ($p < 0.001$)。歯の喪失やFTUの喪失により咀嚼機能が低下し、さらに咀嚼の刺激による唾液量が減少し、自覚症状が生じることが考えられた。また、口腔機能の低下に関する質問の「はい」の数が多くなるにしたがって、現在歯数・FTUとも減少する傾向にあった。現在歯数や臼歯部咬合接触喪失が口腔機能の低下を招いていることが示唆された。口腔機能の低下に関する自覚症状の該当率は、年齢が上がると多くなり複数該当する率も増加した。その差は有意であった。男女には有意な差はみられなかった。

E. 結論

咀嚼機能の低下が生じやすいといわれる 20 歯未満をスクリーニングする方法として、手鏡を使用した質問による歯の数のスクリーニングの有効性が示唆された。臼歯部の咬合状況に関する質問と現在歯数・Functional Tooth Unit (FTU) の関連では、両方できると答えた者の現在歯数・FTU 平均値がいずれも最も多く、その差は有意であった ($p < 0.001$)。質問により、臼歯部の咬合状況をスクリーニングできる可能性が示唆された。

咀嚼機能低下、口腔乾燥に「いいえ」と答えた者の方が現在歯数・FTUとも有意に多かった ($p < 0.001$)。現在歯数や臼歯部咬合接触喪失が口腔機能の低下を招いていることが示唆された。口腔機能の低下に関する自覚症状の該当率は、年齢が上がると多くなり、その差は有意であった。男女には有意な差はみられなかった。

F. 研究発表 1. 論文発表

未定

2. 学会発表

未定

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定も含む)

1. 特許取得

無し

2. 実用新案登録

無し

3. その他

無し

地域住民を対象とした質問票調査と口腔内診査の結果について

分担研究者 川口陽子（東京医科歯科大学大学院健康推進歯学分野）

研究協力者 植野正之（東京医科歯科大学大学院健康推進歯学分野）

柳澤智仁（東京医科歯科大学大学院健康推進歯学分野）

研究要旨

2006 年 11～12 月に、40～55 歳の地域住民 659 名（男性 215 名、女性 444 名）を対象に、質問票調査および歯科健診を実施した。質問票調査の中で、自覚症状として最も多く「はい」と答えたのは、「歯の間に食べ物がはさまりますか（86.6%）」で、次いで、「歯石がついていますか（72.0%）」、「黒くなったり、変色している歯がありますか（40.3%）」であった。歯科健診の結果、歯磨き指導が必要な者は 29.5%、う蝕治療が必要な者は 44.2%、歯石除去が必要な者は 67.9%、歯周病治療が必要な者は 40.5%、義歯の治療が必要な者は 4.8%であり、指導や治療が全く必要ない者は 15.5%であった。すなわち、歯科医師は対象者の口腔内を診査して「約 85%の者は歯科保健指導や歯科治療が必要である」と診断した。このように口腔内に問題のある人は多いが、治療や指導の必要性を自覚している人は少なかった。彼らの受診行動を促進するためには、歯科専門家がいなくても集団健診の場で使用できる質問票を利用した簡便でかつ効果的なスクリーニング法の利用が望ましいと考えられた。

A. 目的

歯の喪失は咀嚼機能や嚥下機能を低下させ、QOL にも影響を与える。日本人が歯の喪失を引き起こす主な原因であるう蝕や歯周病は、初期の段階では痛み等の明確な自覚症状が少ない。しかし、う蝕や歯周病の病状が進み、痛みや歯の動揺・歯肉からの排膿等の明らかな自覚症状を本人が訴えて歯科医院を受診したときには、すでに歯の保存が不可能な症例も少なくない。したがって、口腔疾患の早期発見、早期治療、また、疾患リスクが高い人への保健指導は重要と考えられている。

母子保健の中では 1 歳 6 か月児健康診査や 3 歳児健康診査が、また、学校保健の中では定期健康診断が行われ、その中には歯科健診も含まれている。しかし、成人を対象とした集団健診の際に歯科健診が実施されることは少なく、本人が自発的に歯科医院を受診しないかぎり、歯科健診を受ける機会はほとんどない。

労働者を対象とした産業保健では、一般健康診断は 1 年に 1 回実施されているが、口腔領域に現れる職業性疾患の検診以外に、歯科健康診断を実施している事業所は少ない。また、健康診断の中で歯科健康診断を行っている事業所においてもすべての労働者を対象と

はしないで、希望者のみにオプションとして歯科健康診断を実施しているところが多い。

平成 12 年度から老人保健法に基づいた単独の歯周疾患検診が実施されているが、検診事業を実施しているのは約 30%の市町村であり、対象者は 40 歳、50 歳、60 歳、70 歳と年齢が決められており、受診率は非常に低い。

このように、成人を対象とした集団歯科健診が広がらない理由の一つとして、一般健診とは異なり、歯科健診では歯科医師が一人ずつ口腔内診査を行ってスクリーニングを行うので、マンパワーやコストが高くなることが挙げられる。

広く多くの成人を対象として口腔疾患のスクリーニングを行うためには、歯科専門家がなくても、質問票などを使用して自覚症状の有無などによりスクリーニングを行うことが望ましいと考えられる。したがって、歯科専門家の関与なしに実施可能で、かつ簡便で効果的な口腔機能と口腔疾患のスクリーニング法を新たに開発することが必要と思われる。

本研究は、このようなスクリーニング法を開発するための基礎資料を得るために、地域住民を対象とした調査を行ったので、その結果概要について報告する。

B. 方法

2006 年 4 月現在、秋田県横手市の横手地域局および雄物川地域局管内に在住の 40～55 歳の住民 11,184 名(男性 5,524 名、女性 5,660 名)に対し、本研究の目的と内容を説明し、研究への協力を依頼した。その中で、実際に質問票調査と歯科健診を受けたのは 659 名(男性 215 名、女性 444 名)であった。質問票調査および歯科健診は横手歯科医師会、平鹿歯科医師会に所属する歯科診療所において 2006 年 11～12 月に行われた。

質問票調査の項目は、1 自分の歯あるいは義歯を使用して咬合できるかという質問、2 現在歯数(5つのカテゴリー別)、3 義歯の使用の有無、4 自覚症状の有無(18項目)、5 糖尿病の有無、5 写真と比較した歯肉の状態の判定、7 鏡を見て現在歯数を数えることである。口腔内診査では、1 歯の状況、2 歯肉の状況、3 口腔清掃状態、4 口臭・口腔乾燥の有無、5 臼歯部の咬合接触の有無、6 その他の所見を総合的にみて、健診結果の判定を行った。結果は、それぞれの項目別に男女別、年齢階級別に単純集計を行った。

C. 結果

本研究で分析対象としたのは、質問票調査および歯科健診を受けた 659 名のうち、年齢不詳の者 8 名を除外した、男性 213 名(49.3±4.8 歳)、女性 438 名(49.6±4.7 歳)、計 651 名(49.5±4.7 歳)である。これは対象地域に住む 40～55 歳人口の 5.8%(男性 3.9%、女性 7.7%)に相当する。

質問票調査および歯科健診の結果を、40～44 歳(男性 47 名、女性 96 名) 45～49 歳(男性 64 名、女性 95 名)、50～55 歳(男性 102 名、女性 247 名)の 3つの年齢階級および男女別に分けて、表 1～表 14、図 1～図 14 に示す。

I. 質問票調査の結果

1. 「現在、自分の歯または入れ歯で左右の奥歯をしっかりと噛みしめられますか？」という質問に対して、80.2%が「両側で可能」15.1%が「片側なら可能」と回答した。
2. 「あなたの歯の数は、現在どのくらいありますか？」という質問に対して、28～32本が23.4%、20～27本が53.2%、10～19本が18.8%、1～9本が4.3%、0本が0.3%であった。3/4以上が20本以上自分の歯があると回答した。
3. 「取り外しのできる入れ歯（義歯）を使っていますか？」という質問には、「使っていない」が85.1%、「持っているが使っていない」が2.6%、「いつも使っている」が10.4%、「食事の時のみ使っている」が1.7%、「食事の時以外使っている」が0.2%であった。
4. 「冷たいものでしめたり、痛む歯がありますか？」に「はい」と回答したのは33.8%であった。
5. 「熱いもので痛む歯がありますか？」に「はい」と回答したのは5.9%であった。
6. 「かむと痛む歯がありますか？」に「はい」と回答したのは12.4%であった。
7. 「欠けたり、穴のあいている歯がありますか？」に「はい」と回答したのは25.5%であった。
8. 「詰めものやかぶせたものが取れた歯がありますか？」に「はい」と回答したのは13.7%であった。
9. 「黒くなったり、変色している歯がありますか？」に「はい」と回答したのは40.3%であった。
10. 「歯ぐきが腫れていますか？」に「はい」と回答したのは17.8%であった。
11. 「歯ぐきから血が出ますか？」に「はい」と回答したのは28.6%であった。
12. 「歯ぐきから膿が出ますか？」に「はい」と回答したのは2.5%であった。
13. 「歯の根が出てきましたか？」に「はい」と回答したのは28.1%であった。
14. 「歯石がついていますか？」に「はい」と回答したのは72.0%であった。
15. 「口臭がありますか？」に「はい」と回答したのは40.8%であった。
16. 「グラグラ動く歯がありますか？」に「はい」と回答したのは8.3%であった。
17. 「歯の間に食べ物がはさまりますか？」に「はい」と回答したのは86.6%であった。
18. 「口の中がねばねばしますか？」に「はい」と回答したのは27.5%であった。
19. 「かたいものが食べにくくなりましたか？」に「はい」と回答したのは26.3%であった。
20. 「お茶や汁物などでむせることがありますか？」に「はい」と回答したのは9.7%であった。
21. 「口の渇きが気になりますか？」に「はい」と回答したのは18.6%であった。
22. 「糖尿病にかかっていますか？」に「はい」と回答したのは3.4%であった。
23. 「自分の歯ぐきはどの写真に一番近いですか？」という質問に手鏡で確認した結果、「健康な歯肉」は52.9%、「歯肉炎」は27.2%、「歯周炎」は14.5%、「喫煙者の歯肉」は

5.4%であった。

24. 「手鏡で確認して、自分の歯が何本あるか数えてみてください。」という指示への回答は、40～44歳が26.7歯、45～49歳が25.4歯、50～55歳が23.5歯であり、年齢が高くなるにしたがい、歯の本数が低くなる傾向が認められた。

II. 歯科健診の結果

1. 未処置保有者率はC1以上が43.2%、C2以上が27.2%、C3以上が6.1%であった。また、処置歯保有者率は98.0%、喪失歯保有者率は72.8%であった。
2. 一人平均現在歯数は40～44歳で27.4歯、45～49歳で26.3歯、50～55歳で24.7歯であった。一人平均未処置歯数は40～44歳で1.0歯、45～49歳で1.1歯、50～55歳で1.3歯であった。
3. 歯肉の状態は、「正常」が37.0%、「退縮」が40.2%、「発赤」が37.9%、「排膿」が6.0%、動揺が6.3%であった。
4. 歯の清掃状態は「良好」が28.5%、「普通」が57.8%、「不良」が13.6%であった。
5. 義歯の清掃状態は「良好」が5.1%、「普通」が8.4%、「不良」が1.6%、義歯がない者が84.9%であった。
6. 舌の清掃状態は「良好」が29.1%、「普通」が67.5%、「不良」が3.4%であった。
7. 口臭が強い者が2.3%、弱い者が25.3%、ない者が72.4%であった。
8. 口腔乾燥のある者は4.7%であった。
9. 臼歯部の咬合接触状態のある者は、右大白歯部で90.8%、右小白歯部で97.0%、左大白歯部で90.5%、左小白歯部で97.5%であった。
10. 粘膜所見が認められたのは1.9%であった。
11. RSSTの結果は、1回目は40～44歳で5.0回、45～49歳で4.1回、50～55歳で4.2回であった。2回目は、40～44歳で6.8回、45～49歳で6.3回、50～55歳で6.1回と増加していた。
12. 健診の結果、正常は15.5%、歯磨き指導が必要な者は29.5%、う蝕治療が必要な者は39.1%、歯石除去が必要な者は67.9%、歯周病治療が必要な者は40.5%、義歯の治療が必要な者は4.8%であった。

D. 考察

本研究の対象者は、対象地域に住む40～55歳人口の5.8%に相当する。う蝕や歯周病の治療のために歯科医院を受診した患者ではなく、自ら進んで歯科健診を受けた一般住民である。歯科健診を受けなかった者と比較すると、歯の健康に対する関心が高かった可能性が考えられるが、それでも口腔が健康と診断されたのは約15%であり、約85%の者は歯科保健指導や歯科治療が必要であると判定された。

このように多くの人が口腔疾患を有していることが明らかになったが、今後、歯の喪失を防止し、咀嚼機能や嚥下機能の低下を未然に防ぐためには、口腔疾患の早期発見、早期治療、また、疾患リスクが高い人への保健指導をできるだけ多くの人を対象に実施することが必要と思われる。近年、歯周病と糖尿病との関連など、口腔と全身の健康との関連について報告が行われているが、口腔疾患を治療・予防し、口腔機能を維持していくことは全身の健康維持に寄与するだけでなく、QOLの高い生活を保証することにもつながる。

2005年に実施された歯科疾患実態調査によると、未処置保有者率および一人平均未処置歯数は40～44歳で35.6%、0.9歯、45～49歳で42.1%、1.0歯、50～54歳で37.4%、1.0歯、また、喪失歯保有者率および一人平均喪失歯数は40～44歳で49.0%、1.4歯、45～49歳で63.7%、2.3歯、50～54歳で67.7%、3.7歯と報告されている。さらに、補綴処置の状況が一部完了の者、未処置の者の割合はそれぞれ40～44歳で12.6%、18.2%、45～49歳で22.8%、16.2%、50～54歳で25.6%、18.5%とされている。

同様に、CPIで判定した歯肉の状況を見ると、歯肉出血（コード1）、歯石沈着（コード2）、歯周ポケット4mm以上6mm未満（コード3）、歯周ポケット6mm以上（コード4）の割合は、それぞれ、40～44歳で9.8%、45.9%、25.6%、3.3%、45～49歳で9.7%、34.6%、34.6%、8.2%、50～54歳で9.8%、36.0%、34.3%、7.4%である。すなわち、40～44歳の84.6%、45～49歳の87.2%、50～54歳の87.5%に歯肉に症状が認められ、歯科保健指導、歯石除去、歯周治療などが必要と考えられた。

本研究の対象地域だけでなく、歯科疾患実態調査でも明らかのように、わが国において口腔内に疾患を有する成人は多い。しかし、残念ながらそのことを自覚して歯科医院を受診する人は少ないのが現状である。今後、8020を達成していくための成人歯科保健対策を考えていく上で、多くの人を対象として口腔疾患の早期発見、早期治療、また、疾患リスクが高い人への保健指導を行うことは重要と考えられる。したがって、歯科受診行動を促進していくためには、歯科医師が一人一口腔内診査を行う健診システムだけでなく、歯科専門家がない健診の場も広く利用して、成人対象の歯科健診集団健診の場で使用できる質問票を利用した簡便でかつ効果的なスクリーニング法の利用が望ましいと考えられた。

E. 結論

わが国において口腔内に疾患を有する成人は多い。しかし、そのことを自覚して歯科医院を受診する人は少ない。したがって、多くの人を対象として口腔疾患の早期発見、早期治療、また、疾患リスクが高い人への保健指導を行うことは重要と考えられる。そのためには、歯科医師が一人一口腔内診査を行う健診システムだけでなく、歯科専門家がない健診の場も広く利用して、成人対象の歯科健診集団健診の場で使用できる質問票を利用した簡便でかつ効果的なスクリーニング法の利用が望ましいと考えられた。

F. 研究発表

1. 論文発表 未定
2. 学会発表 未定

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定も含む）

1. 特許取得
無し
2. 実用新案登録
無し
3. その他
無し

資料

I. 質問票の回答結果

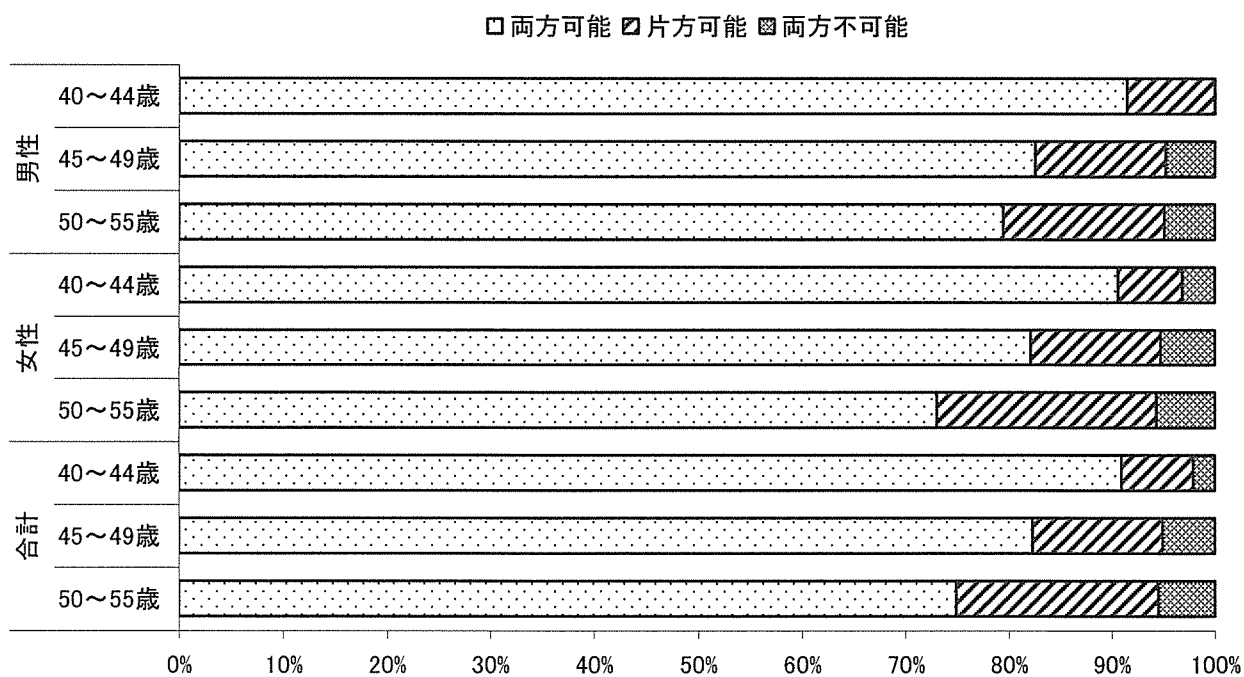
1. 現在、自分の歯または入れ歯で左右の奥歯をしっかりとかみしめられますか？

回答結果を表 1、図 1 に示す。

表 1

		n	両方可能		片方可能		両方不可能	
男性	40～44 歳	47	43	91.5%	4	8.5%	0	0.0%
	45～49 歳	63	52	82.5%	8	12.7%	3	4.8%
	50～55 歳	102	81	79.4%	16	15.7%	5	4.9%
女性	40～44 歳	96	87	90.6%	6	6.3%	3	3.1%
	45～49 歳	95	78	82.1%	12	12.6%	5	5.3%
	50～55 歳	245	179	73.1%	52	21.2%	14	5.7%
合計	40～44 歳	143	130	90.9%	10	7.0%	3	2.1%
	45～49 歳	158	130	82.3%	20	12.7%	8	5.1%
	50～55 歳	347	260	74.9%	68	19.6%	19	5.5%
	計	648	520	80.2%	98	15.1%	30	4.6%

図 1



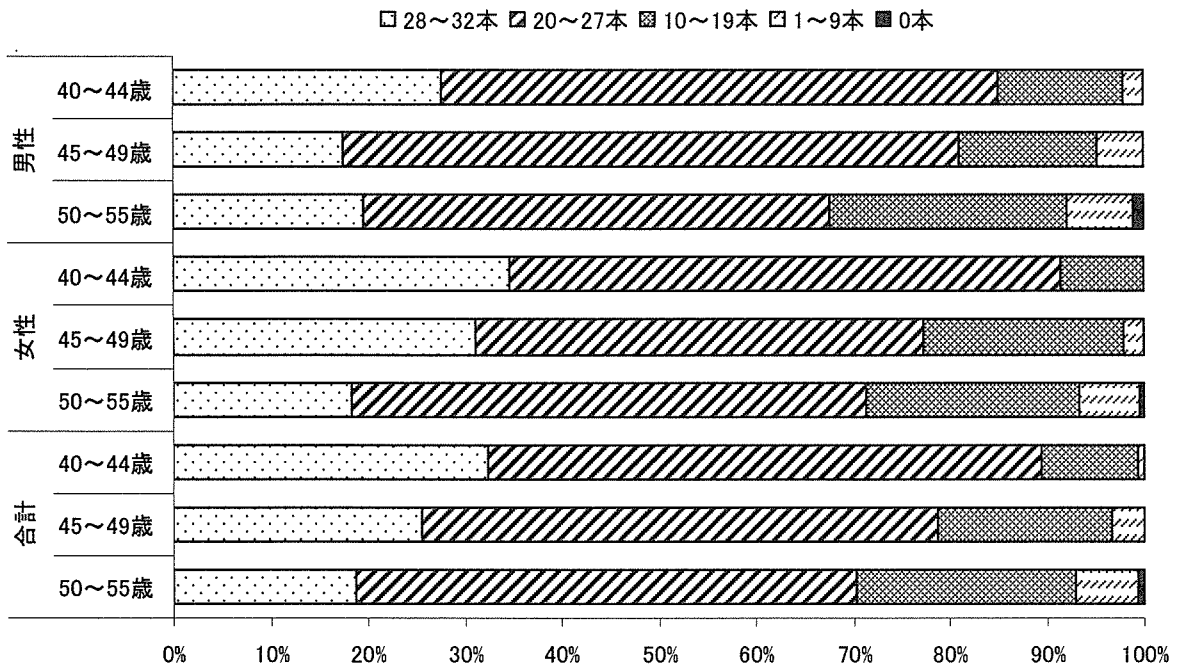
2. あなたの歯の数は、現在どのくらいありますか？

回答結果を表 2、図 2 に示す。

表 2

		n	28～32 本		20～27 本		10～19 本		1～9 本		0 本	
男性	40～44 歳	47	13	27.7%	27	57.4%	6	12.8%	1	2.1%	0	0.0%
	45～49 歳	63	11	17.5%	40	63.5%	9	14.3%	3	4.8%	0	0.0%
	50～55 歳	102	20	19.6%	49	48.0%	25	24.5%	7	6.9%	1	1.0%
女性	40～44 歳	95	33	34.7%	54	56.8%	8	8.4%	0	0.0%	0	0.0%
	45～49 歳	93	29	31.2%	43	46.2%	19	20.4%	2	2.2%	0	0.0%
	50～55 歳	245	45	18.4%	130	53.1%	54	22.0%	15	6.1%	1	0.4%
合計	40～44 歳	142	46	32.4%	81	57.0%	14	9.9%	1	0.7%	0	0.0%
	45～49 歳	156	40	25.6%	83	53.2%	28	17.9%	5	3.2%	0	0.0%
	50～55 歳	347	65	18.7%	179	51.6%	79	22.8%	22	6.3%	2	0.6%
	計	645	151	23.4%	343	53.2%	121	18.8%	28	4.3%	2	0.3%

図 2



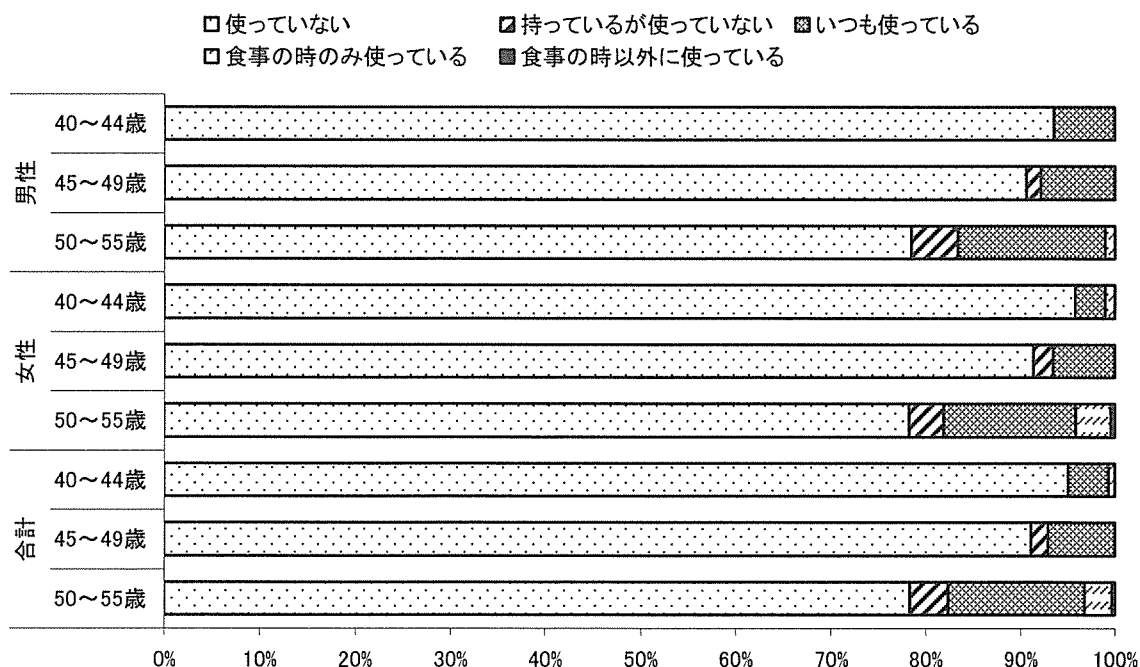
3. 取り外しのできる入れ歯（義歯）を使っていますか？

回答結果を表3、図3に示す。

表3

		n	使っていない		持っているが 使っていない		いつも使っている		食事の時のみ 使っている		食事の時以外に 使っている	
男性	40～44歳	47	44	93.6%	0	0.0%	3	6.4%	0	0.0%	0	0.0%
	45～49歳	64	58	90.6%	1	1.6%	5	7.8%	0	0.0%	0	0.0%
	50～55歳	102	80	78.4%	5	4.9%	16	15.7%	1	1.0%	0	0.0%
女性	40～44歳	96	92	95.8%	0	0.0%	3	3.1%	1	1.0%	0	0.0%
	45～49歳	93	85	91.4%	2	2.2%	6	6.5%	0	0.0%	0	0.0%
	50～55歳	243	190	78.2%	9	3.7%	34	14.0%	9	3.7%	1	0.4%
合計	40～44歳	143	136	95.1%	0	0.0%	6	4.2%	1	0.7%	0	0.0%
	45～49歳	157	143	91.1%	3	1.9%	11	7.0%	0	0.0%	0	0.0%
	50～55歳	345	270	78.3%	14	4.1%	50	14.5%	10	2.9%	1	0.3%
	計	645	549	85.1%	17	2.6%	67	10.4%	11	1.7%	1	0.2%

図3



4.次の症状がありますか？それぞれお答えください

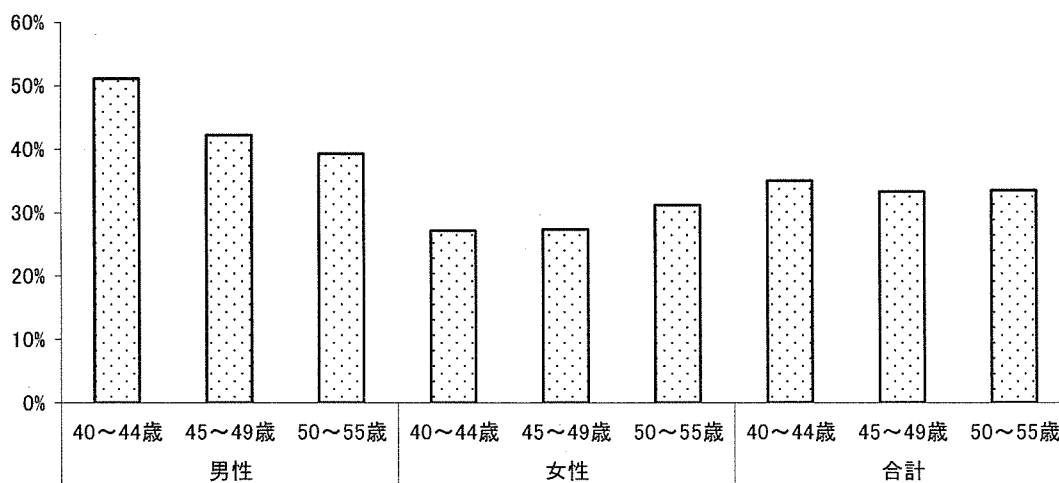
1) 冷たいものでしみたり、痛む歯がありますか？

回答結果を表 4-1、図 4-1 に示す。

表 4-1

		n	あり		なし	
男性	40～44 歳	47	24	51.1%	23	48.9%
	45～49 歳	64	27	42.2%	37	57.8%
	50～55 歳	102	40	39.2%	62	60.8%
女性	40～44 歳	96	26	27.1%	70	72.9%
	45～49 歳	95	26	27.4%	69	72.6%
	50～55 歳	247	77	31.2%	170	68.8%
合計	40～44 歳	143	50	35.0%	93	65.0%
	45～49 歳	159	53	33.3%	106	66.7%
	50～55 歳	349	117	33.5%	232	66.5%
計		651	220	33.8%	431	66.2%

図 4-1



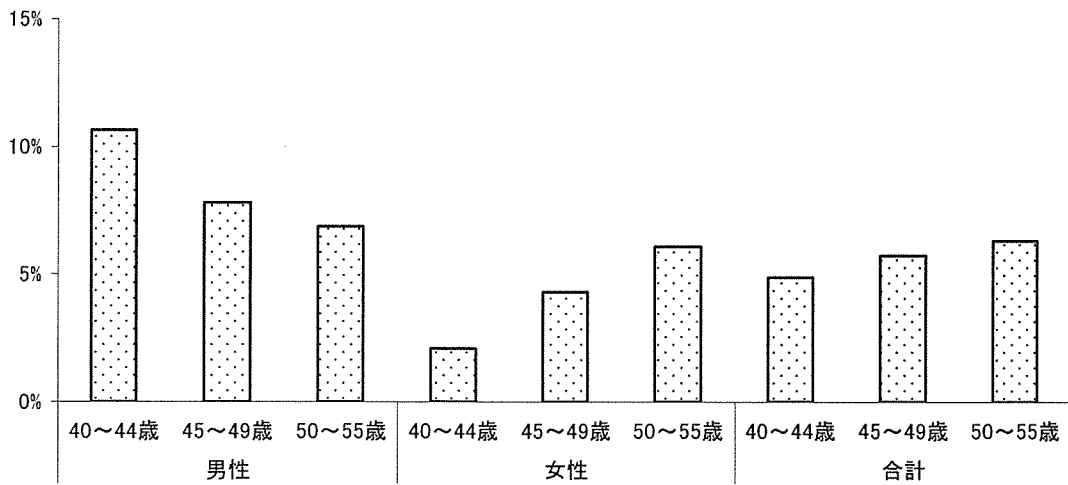
2) 熱いもので痛む歯がありますか？

回答結果を表 4-2、図 4-2 に示す。

表 4-2

		n	あり		なし	
男性	40～44 歳	47	5	10.6%	42	89.4%
	45～49 歳	64	5	7.8%	59	92.2%
	50～55 歳	102	7	6.9%	95	93.1%
女性	40～44 歳	96	2	2.1%	94	97.9%
	45～49 歳	93	4	4.3%	89	95.7%
	50～55 歳	246	15	6.1%	231	93.9%
合計	40～44 歳	143	7	4.9%	136	95.1%
	45～49 歳	157	9	5.7%	148	94.3%
	50～55 歳	348	22	6.3%	326	93.7%
	計	648	38	5.9%	610	94.1%

図 4-2



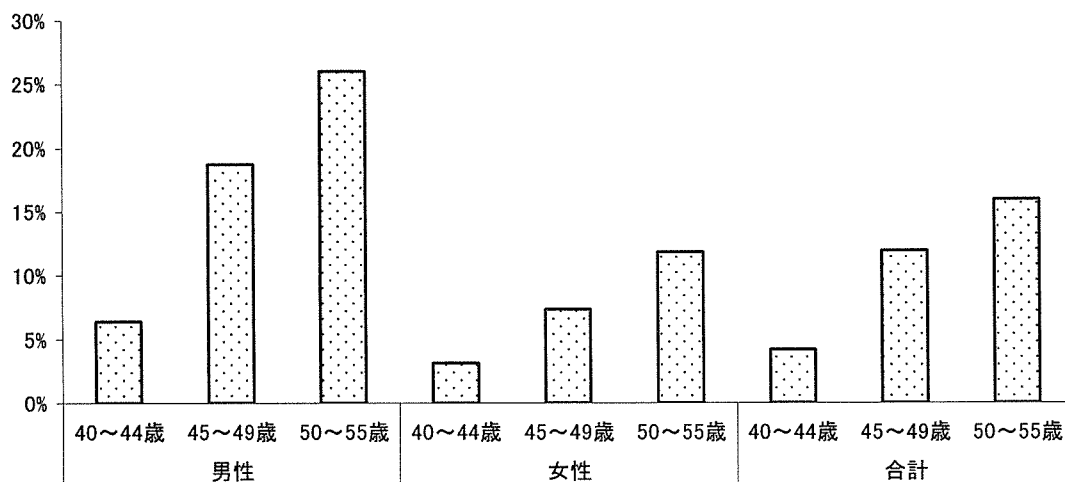
3) かむと痛む歯がありますか？

回答結果を表 4-3、図 4-3 に示す。

表 4-3

		n	あり		なし	
男性	40～44 歳	47	3	6.4%	44	93.6%
	45～49 歳	64	12	18.8%	52	81.3%
	50～55 歳	100	26	26.0%	74	74.0%
女性	40～44 歳	96	3	3.1%	93	96.9%
	45～49 歳	95	7	7.4%	88	92.6%
	50～55 歳	245	29	11.8%	216	88.2%
合計	40～44 歳	143	6	4.2%	137	95.8%
	45～49 歳	159	19	11.9%	140	88.1%
	50～55 歳	345	55	15.9%	290	84.1%
	計	647	80	12.4%	567	87.6%

図 4-3



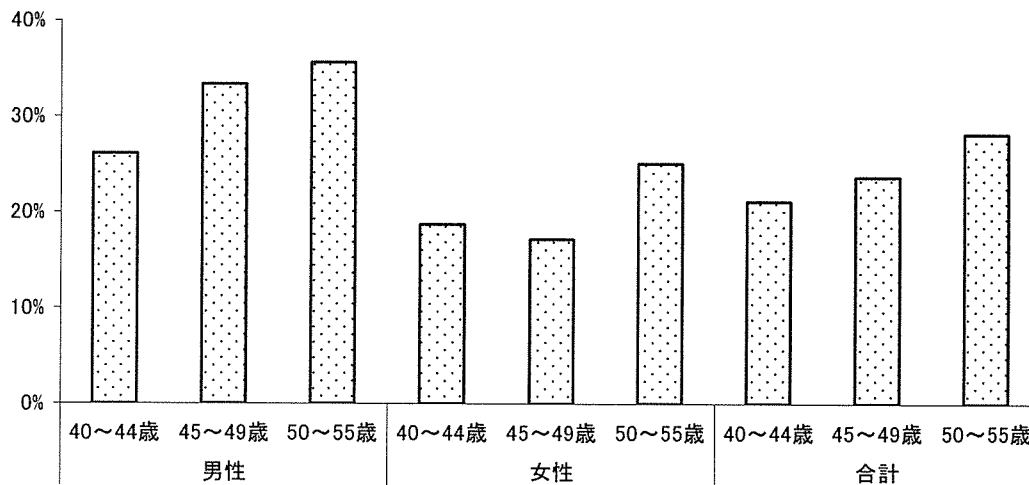
4) 欠けたり、穴のあいている歯がありますか？

回答結果を表 4-4、図 4-4 に示す。

表 4-4

		n	あり		なし	
男性	40～44 歳	46	12	26.1%	34	73.9%
	45～49 歳	63	21	33.3%	42	66.7%
	50～55 歳	101	36	35.6%	65	64.4%
女性	40～44 歳	96	18	18.8%	78	81.3%
	45～49 歳	93	16	17.2%	77	82.8%
	50～55 歳	247	62	25.1%	185	74.9%
合計	40～44 歳	142	30	21.1%	112	78.9%
	45～49 歳	156	37	23.7%	119	76.3%
	50～55 歳	348	98	28.2%	250	71.8%
計		646	165	25.5%	481	74.5%

図 4-4



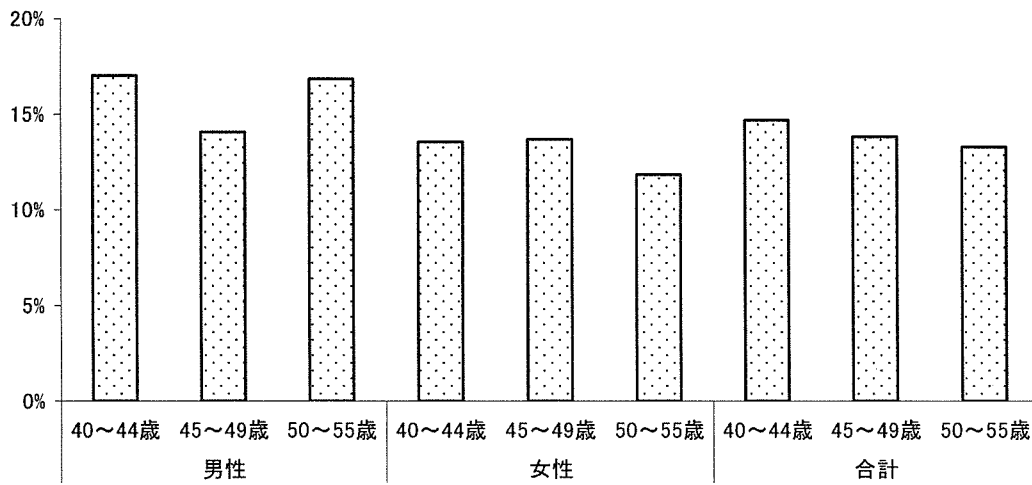
5) 詰めものやかぶせたものが取れた歯がありますか？

回答結果を表 4-5、図 4-5 に示す。

表 4-5

		n	あり		なし	
男性	40～44 歳	47	8	17.0%	39	83.0%
	45～49 歳	64	9	14.1%	55	85.9%
	50～55 歳	101	17	16.8%	84	83.2%
女性	40～44 歳	96	13	13.5%	83	86.5%
	45～49 歳	95	13	13.7%	82	86.3%
	50～55 歳	245	29	11.8%	216	88.2%
合計	40～44 歳	143	21	14.7%	122	85.3%
	45～49 歳	159	22	13.8%	137	86.2%
	50～55 歳	346	46	13.3%	300	86.7%
	計	648	89	13.7%	559	86.3%

図 4-5



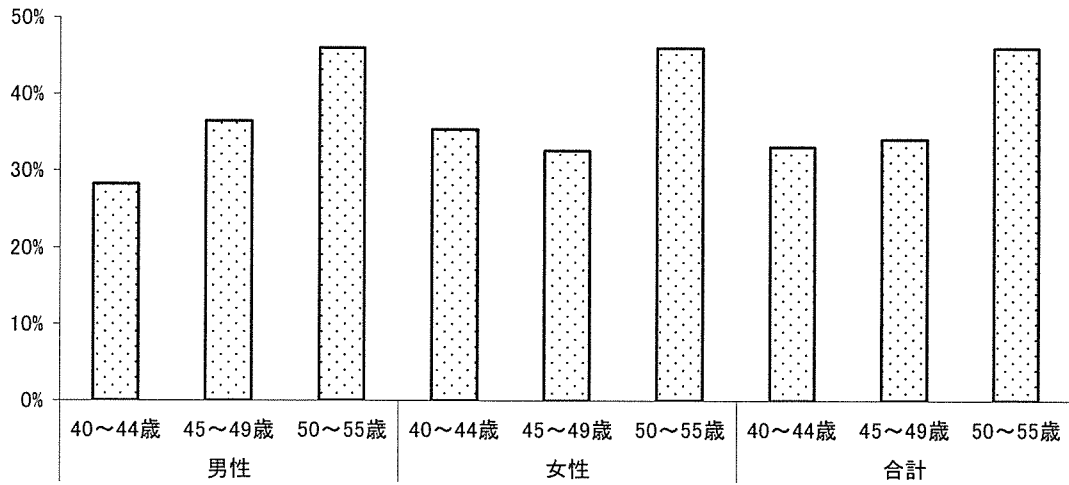
6) 黒くなったり、変色している歯がありますか？

回答結果を表 4-6、図 4-6 に示す。

表 4-6

		n	あり		なし	
男性	40～44 歳	46	13	28.3%	33	71.7%
	45～49 歳	63	23	36.5%	40	63.5%
	50～55 歳	102	47	46.1%	55	53.9%
女性	40～44 歳	96	34	35.4%	62	64.6%
	45～49 歳	95	31	32.6%	64	67.4%
	50～55 歳	241	111	46.1%	130	53.9%
合計	40～44 歳	142	47	33.1%	95	66.9%
	45～49 歳	158	54	34.2%	104	65.8%
	50～55 歳	343	158	46.1%	185	53.9%
計		643	259	40.3%	384	59.7%

図 4-6



7) 歯ぐきが腫れていますか？

回答結果を表 4-7、図 4-7 に示す。

表 4-7

		n	あり		なし	
男性	40～44 歳	47	9	19.1%	38	80.9%
	45～49 歳	64	9	14.1%	55	85.9%
	50～55 歳	102	18	17.6%	84	82.4%
女性	40～44 歳	96	15	15.6%	81	84.4%
	45～49 歳	94	19	20.2%	75	79.8%
	50～55 歳	244	45	18.4%	199	81.6%
合計	40～44 歳	143	24	16.8%	119	83.2%
	45～49 歳	158	28	17.7%	130	82.3%
	50～55 歳	346	63	18.2%	283	81.8%
計		647	115	17.8%	532	82.2%

図 4-7

